伊勢市立東大淀小
学校だより

くすのき

令和７年度NO.２６　ホームページ http://www.ise-mie.ed.jp/~higasioizu-e/

令和７年１２月２日　編集・発行　東大淀小学校　松本　栄

地域を知る～３年生「タウンウオッチング」から～

１１月１７日は快晴の気持ちのいい日。絶好の３年生「タウンウオッチング」日和です。まちづくり協議会の方にお世話になり、校区の防災設備を見て回ります。

一般的に３年生という発達段階は、１・２年生よりも広い視野で物事を捉えられるようになります。今までは家族・友達といった視点が、「地域」へと視点が広がっていきます。

そのため、３年生は２学期、地域で働く人や地域の施設を見てまわりました。地域のスーパーマーケットを見学し、お店屋さんの工夫について学んだり、小俣図書館を見学して、来館される方に喜んでもらうような工夫を学んだりしました。そして、今回は、校区を歩きながら、どこに、どんな防災設備があるのか、どんな工夫があるのかを見ていきます。

よく見ると、ホース格納庫は、道路にたくさんあります。そして必ず近くに消火栓があることがわかりました。

普段何気なく歩いているところでも、「防災」という視点で、注意深く見ていくと気づくことがあります。まず子どもたちがびっくりしたのは、「災害用井戸」です。これには、私も今まで気づいておらず、驚きました。この井戸があるだけで、災害で断水しても、「水」というライフラインが確保することができます。

歩いていくと、子どもたちが消火用のホース格納庫を発見しました。ということは・・・どこかに消火栓があるはず！探し回る子どもたち、ちゃんとありました。これで、いざ火災が発生しても、消火活動を行うことができます。

いざという時、このような警告の看板も大切になります。

こんな風に、歩いていくと、校区は、発見に溢れていました。消火栓の場所を知らせる立て看板、防火のための水を蓄えていく防火水槽、津波を抑える防潮壁、避難場所を知らせる看板・・・数え上げればきりがないほどです。

子どもたちは、その一つ一つを写真におさめ、気づいたことを書き加えました。子どもたちの気づきは、防災マップとして仕上げていきます。どんなマップができるのか、楽しみです。